

## はじめに

ここに令和6年版名古屋市環境白書を公表します。

この冊子は、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例第11条の規定に基づき、令和5年度における環境の状況及び環境の保全に関して講じた施策を取りまとめ、報告するものです。

昨年3月に公表されたIPCCの第6次評価報告書では、工業化以前と比べ、既に1.1℃の温暖化が生じており、温暖化が人間活動の影響であることには疑う余地がないとされています。世界の平均気温は依然として上昇傾向にあり、世界規模の異常気象や自然災害が発生し、気候変動問題への対応は喫緊の課題です。日本では、本年6月から8月の平均気温が統計を始めた1898年以降で2023年と並び最も高くなり、名古屋においても、最高気温が35℃以上の猛暑日の日数が最も多くなるなど、記録的な猛暑となりました。このような猛暑日、熱帯夜等の日数の増加のほか、大雨や短時間強雨の発生頻度が増加し、各地で被害が発生しています。加えて、高温による農作物の生育障害や品質低下が発生するなど、気候変動の影響は、様々な地域、分野において既に発生しています。

また、地球温暖化による気候変動は、生物多様性の損失やごみ・プラスチック問題などとも密接なつながりがあり、持続可能な社会を実現するために、こうした問題の同時解決にむけた統合的な取組みが求められています。

名古屋市では、昨年10月に「生物多様性なごや戦略実行計画2030」を、本年3月に「名古屋市地球温暖化対策実行計画2030」及び「名古屋市第6次一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。市民・事業者とのパートナーシップを基盤に、それぞれの計画を着実に進め、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブの実現、持続可能な循環型都市の実現など、多様化する環境問題の同時解決に向けた取組みを進めてまいります。

環境問題は、一人ひとりのライフスタイルや経済・社会システムと深い関わりがあり、その解決には、私たちの日々の暮らしや経済活動が環境にどのような影響を与えているのかを考えることが第一歩です。そして、自分事として行動に移していくことが不可欠です。これまで築き上げてきたパートナーシップを一層発展させることで、持続可能な社会の実現をともに目指していきましょう。

この冊子が広く活用され、本市の環境の現状や取組みについての理解を深めていただくとともに、持続可能な社会の実現に向け行動するきっかけとなることを願っています。

令和6年12月

名古屋市長